

赤潮発生状況について

住友寿明・酒井基介

赤潮情報伝達事業の一環として、県下における赤潮発生状況を取りまとめた。なお、赤潮発生時などの情報収集、現場における赤潮の推移状況、被害発生調査等は前年と同様の方法で実施した。

結果及び考察

表1に平成21年の赤潮発生状況、図1に赤潮発生件数と被害件数の推移、図2に赤潮形成域の分布をそれぞれ示した。本年は前年より2件少ない4件の発生がみられた。7月中旬には、播磨灘で*Cochlodinium polykrikoides*による赤潮が発生して漁業に対する影響が危惧されたが、被害は報告されなかった。今季は赤潮の多発期である夏季において、台風による攪拌や大雨による栄養塩のまとまった補給が無かったため赤潮の発生件数が少なかったと考えられる。

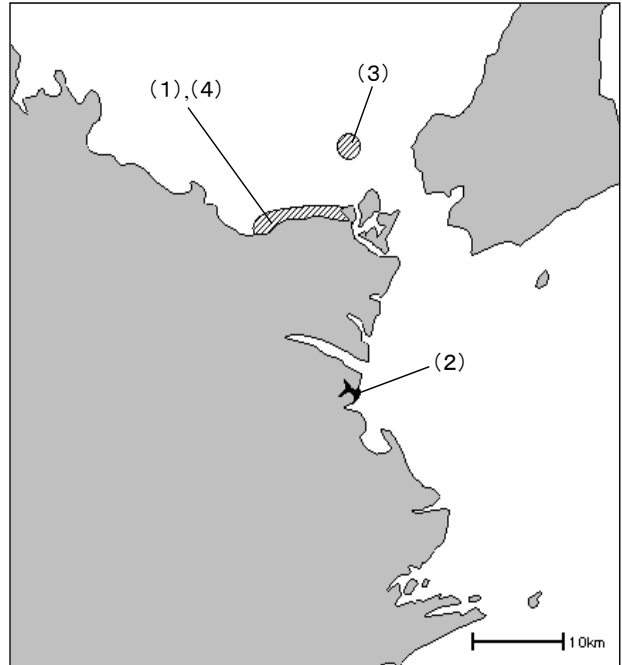


図2．赤潮形成域の分布

図中の番号は表1に示した赤潮の番号を示している。

表1．平成21年の赤潮発生状況

番号	発生期間	日数	発生海域	赤潮構成種	漁業被害	最高細胞数 (cells/ml)	備考
1	4/7～4/20	14	鳴門市北灘町沿岸	<i>Noctiluca scintillans</i>	無	655	
2	6/8～7/15	38	徳島市新町川河口周辺	<i>Chaetoceros</i> spp.	無	20,750	
				<i>Skeletonema</i> spp.	無	16,670	
3	7/16～7/21	6	淡路島丸山漁港西5～6km	<i>Cochlodinium polykrikoides</i>	無	1,269	
4	10/19～10/28	10	鳴門市北灘町沿岸	<i>Mesodinium rubrum</i>	無	915	

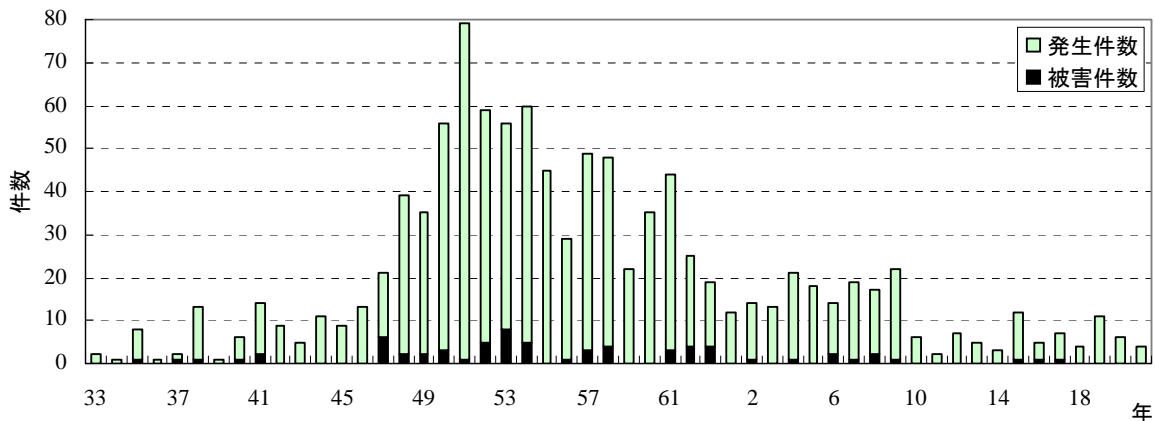


図1．赤潮の発生件数と被害件数の推移